

よしだしょういん
吉田松陰

おやおもう
親思ふ

こころにまよひる

おや
親づゝろ

きょうおと
けふの音づれ

なんき
何と聞くらむ

(意味)子を思う親の心は、子が親を思う心より、はるかに深く切実だ。自分が刑死するという今日の知らせをふるさとおも父母様はどのようなお気持ちで受け取られることだろう。

幕末の志士・吉田松陰が刑死する直前、家族に最後におくられた和歌です。松陰は、国のために行動してきた自らの来し方に恥じることはなかったと思いますが、自分が刑に処せられるという知らせを、愛情をもって育んでくれた両親がうけたらどれほど嘆き悲しまれることだろうか、という熱い涙が伝わってきます。逆境の極みの時こそ、自分を生かしてくれている存在への感謝の気持ちを忘れない松陰の真心があらわれています。